

(公益社団法人) 日本技術士会近畿本部 上下水道部会
第 1 回 全 体 会 議 事 録

1. 日時：平成 25 年 5 月 2 日（木）17:10～17:50
2. 会場：公益社団法人 日本技術士会近畿本部会議室
3. 配布資料
 - (1) ① 第 1 回全体会次第
 - ② 報告事項
平成 24 年度活動報告の件
 - ③ 平成 24 年度決算報告書
 - ④ 平成 25 年度予算
 - ⑤ 報告事項
平成 25 年度活動計画
 - (2) ① 「近畿本部上下水道部会」創設及び全体会等について（お知らせ）
 - ② 近畿本部上下水道部会の概要
 - ③ 公益社団法人 日本技術士会 近畿本部上下水道部会[会則]
 - ④ その他：技術士の目的・理念、日本の技術者コミュニティ、技術士像、人材等資料
4. 開会
西澤副部長から、17 時 10 分開会宣言。
今村部会長から、挨拶をかねて、その他の資料により目的・理念、日本の技術者コミュニティ等を説明した。
西澤副部長から、役割分担表の順に幹事の役職と役割分担を紹介。
5. 議事
恒例により今村部会長が議長になり、「総会」の形を取らないで、「全体会」とした理由を説明し、議事に入った。
 - (1) 報告事項
 - ① 平成 24 年度活動報告は資料に基づき、飯盛幹事から報告。
 - ② 平成 24 年度決算報告は資料に基づき、菱田副部長から報告。監査報告は森田監事から報告。
 - ③ 平成 25 年度予算報告は資料に基づき、菱田副部長から報告。
 - ④ 平成 25 年度活動報告は資料に基づき、中村副部長から報告。
報告事項とくに質問もなく、議事は終了した。
7. 閉会
17 時 50 分、司会から閉会を宣言し、全体会は終了した。

以上

目的・理念

- ◆ **資質の向上**を目指す
継続的研鑽(CPD)を実施する
- ◆ **公益を確保**する
技術者倫理の責務を果たす
- ◆ **連帯意識**を高める
緩やかなネットワークを構築する

CPD= Continuing Professional Development

日本の技術者コミュニティ

技術者: 240万人・企業内

科学者78万人
日本学術会議

技術士6万人
日本技術士会

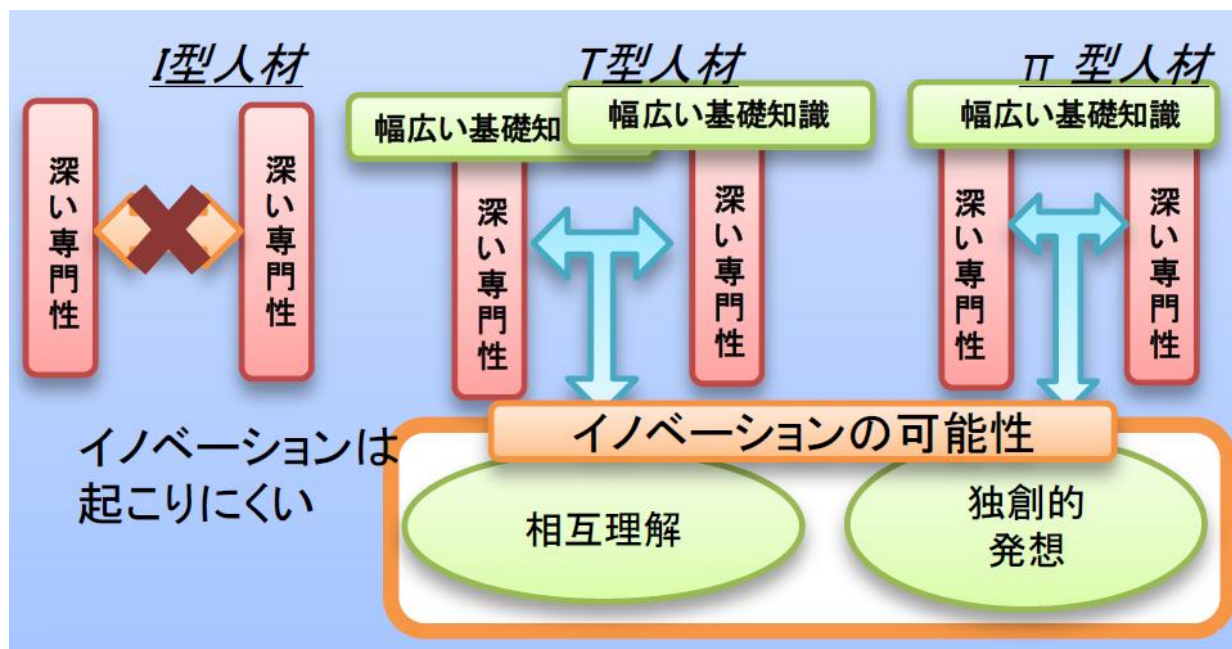
新卒学士
年間10万人(大学)

中国では
年間80万人(大学)

一級建築士34万人
日本建築士連合会

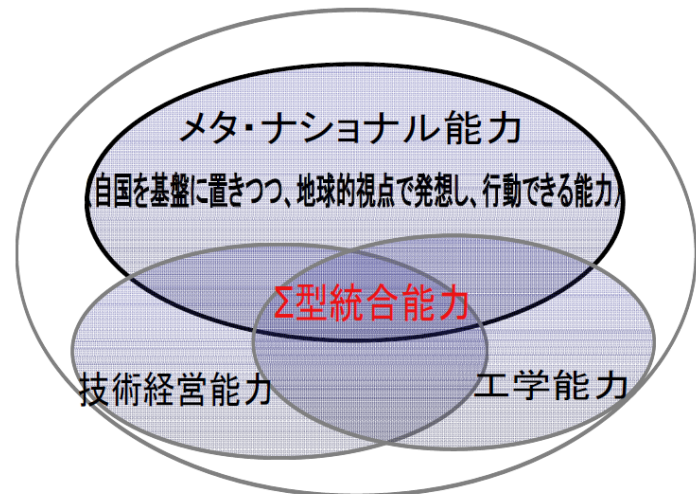
2-3. T形、 Π (パイ)形の技術者が必要

- 産業界で求められる技術士像は、いわゆるT型、 Π (パイ)型のような、深い専門技術とともに、技術横断的に広く問題を把握し解決できる能力を兼ね備えた者である。



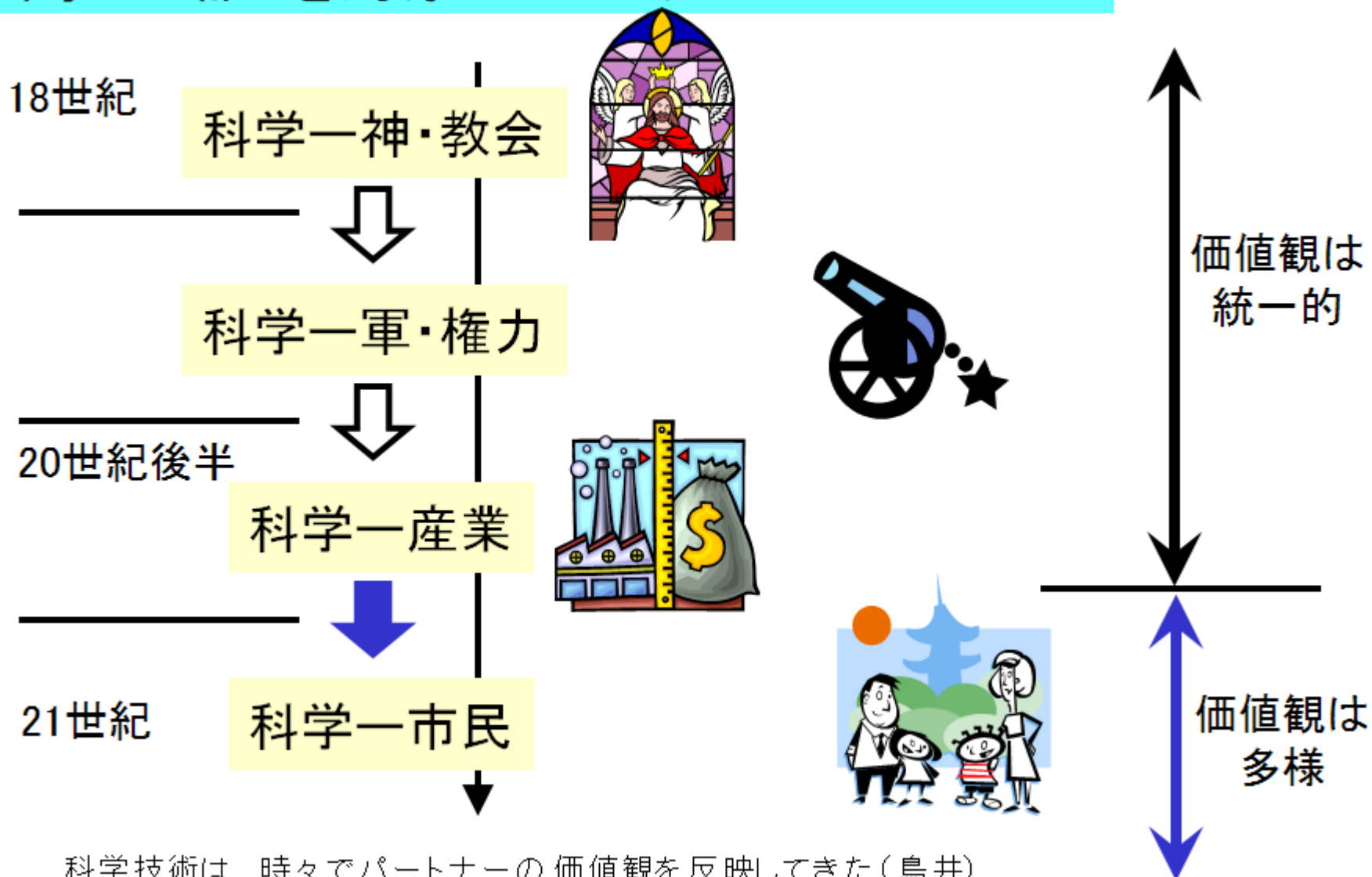
2-4. Σ 型人材が必要

- 知の結合によって社会的経済的価値を創造する人材(Σ 型人材)が必要である。
- Σ 型人材は、科学技術革新を統合して、イノベーション創出をリードする人材であり、21世紀の新リベラルアーツの素養をもとに、ある程度幅広い「工学能力」、工学を社会経済的価値化する「技術経営能力」、自国を基盤に置きつつ、地球的視点で発想し、行動できる「メタ・ナショナル能力」をコアコンピテンシーとして備えたグローバル人材が必要である。



第25回技術士分科会「資料13」(柘植委員)より

科学は“誰”を対象・パートナーとしていたか



科学と技術の対比

科学	技術
原理、法則	応用、開発
普遍的(グローバル)	特殊(ローカル)
単純系、理想世界	複雑系、現実世界
原理主義(発見)	現実との妥協(発明)
個人の合理的価値	集団の多元的価値
人間と独立	人間と密着
多様性・多重生	一様性・簡明性
精神的(文化)	物質的(文明)